

私は、茨城県の牛久市(世界一の高さでギネスブックにも登録されている牛久大仏、日本初の本格的ワイナリーの牛久シャトー、横綱・稀勢の里(背水の陣・初場所の結果は如何に…?)の出身地等で知られています)というところで高校時代までを過ごしておりましたが、北の大地への憧れから大学進学を機に北海道へと渡りました。

小さい頃から運動が好きで、小学校ではソフトボールとバスケットボール、中学では野球と陸上、高校ではバレーボール、大学ではボート、大学院ではテニス(我流)と、見境も無く様々なスポーツに励み、今はフルマラソンにチャレンジすべく、ただシンプルに走っています。大学では建築工学科に進むつもりだったのが、何故か土木工学科へと進み、卒論・修論のテーマは「流氷」でした。流氷といっても遙かアムール川からオホーツク海沿岸に押し寄せる流氷ではなく、寒冷域の河川を流れる氷に関する研究を行っていました。

大学卒業後、建設コンサルタント会社に就職し、最初は砂防分野(大学では何故か工学系ではなく農学系の学部にあることが多い)の部署に配属となり、主に砂防施設の計画・設計に従事、その後、同社の北海道支社に転勤となり河川計画分野の業務に携わりました。同社に8年間勤めた後、思うところがあり現在の会社に転職し、今は主に漁港計画分野の業務に携わっております。技術士も業務の変遷に合わせて、「河川、砂防及び海岸・海洋」→「港湾及び空港」→「水産土木」の順に取得しております。

思い返してみれば、スポーツも仕事も一貫性がないですね。そろそろ腰を据えて一つの道を究めたいと考えているところです。さて、次は何をしようかな?(あれっ?…結局一貫性がない?)

## 河合 孝治(かわい たかはる)

●総合技術監理/建設/水産

### 勤務先

株式会社クマシロシステム設計



→次号は、中村信哉さん(建設部門)

私は函館市で生まれ、学生を卒業するまでの20年間を七飯町で過ごしました。建具師であった祖父をはじめ、母方の親戚縁者に建築関係の仕事に従事する人達が多く、モノ造りの現場に近い環境で育ちました。その影響なのか、小さい頃から工作などのモノ造りが好きな子供でした。

学校卒業後の1996年(平成8年)に現勤務先に入社し、以来22年間橋梁設計に関する仕事に携わっております。入社2年目にPC上部工専業社さんに出向し、PC橋設計のイロハを学びました。入社4年目には社内部署間のローテーション制度により地質部に一時転籍をし、地質調査・解析の実務を経験しました。橋梁設計に従事するコンサル技術者として、専門性の高いPC上部工設計や地質調査・解析の実務に携わる機会に恵まれた事は、自分にとって大きな財産になったと思っています。

技術士資格は2008年(平成20年)に取得しました。あまり深い考えも無しのチャレンジで、技術者としても相当に未熟な段階での運任せの合格であったように思いますが、今振り返ると、資格を取得した事で自覚が芽生えて仕事に対する責任感がより一層増した事や、管理技術者として大きな責任のもとで業務に携わる機会が増えた事が、自分自身の成長に繋がったものと思っています。「立場が人を育てる」という言葉がありますが、「資格が技術者を育てる」という事もあると実感しています。資格取得に向けたモチベーションが今一つ湧いてこないという若手技術者の皆さんの参考になれば幸いです。

私自身も、社会インフラの維持整備を通じて北海道の将来に微力ながら貢献できる技術者となれるよう、今後も自己研鑽に励んでいきたいと考えています。

## 塩原 龍法(しおばら たつのり)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

### 勤務先

株式会社開発工営社  
交通第2部



→次号は、次村英毅さん(建設部門)